

SS 探究 II C

放射線セミナー

令和5年6月30日（金）、長崎大学原爆後障害医療研究所の松永妃都美先生を講師としてお招きし、2年家政科を対象とした放射線セミナーを開催しました。

「放射線」について、物理の授業がない生徒にとっては、ハードルが高いセミナーとなるため、入門編として「放射線」の基礎知識について本校の緒方教諭による事前研修を行いました。そのためセミナーの内容について、その予備知識を使って取り組むことができたようでした。

講義の流れとしては、「放射線についての種類や性質などの説明」→「霧箱による放射線の軌跡の観察」→「放射線の線量計による校内測定」→「健康と放射線について」でした。

放射線の種類や性質については、種類はもちろんその透過性などの説明もありました。また、霧箱で使用する線源の安全性についても十分な説明で、生徒は不安無く取り組むことができました。霧箱では、次々に発生する放射線の軌跡を見て、生徒たちも歓声を上げていました。そして、線量計である「はかるくん」を使って各自1台持ち、校内の様々な場所の放射線量を測定しました。普段の生活空間にある放射線の存在や放射線は喚起が悪い所で線量が高くなることなど、実際に測定で確認することができました。

最後に、福島原発事故などの状況をもとに、放射線と健康について説明がありました。「被ばく」後の体の状態について、外部被ばく・内部被ばくともに被ばく量が大きな分岐点となるということでした。通常的生活であれば、健康診断のレントゲンなど加味しても、影響はかなり低いということでした。このことは、福島原発のある地域（立ち入り禁止区域外）でも同様で、通常的生活ができるそうです。また、被ばくした人の遺伝的影響は、現在のところ科学的に確認されていないそうです。野菜等の食品は、放射線量を検査し、安全を確認後、出荷されていて、今でも課題となっている風評被害は、科学的な知見からきちんと判断すれば「安全」であり、広報の仕方が大切であるということでした。放射線を理解することが「安全」「安心」「健康」に繋がるという松永先生の『おもい』を感じるセミナーとなりました。



写真 左：研修 中央：霧箱観察 右：放射線測定